

ロスナイセントラル換気ユニット

住宅用

形名

VL-10ZF

取付工事説明書

販売店・工事店さま用

本製品は住宅の天井取付け専用です。それ以外の用途（業務用途など）には使用しないでください。故障の原因となります。

取付工事を始める前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に取付けてください。

取付工事、壁穴工事、電気工事はお買い上げの販売店・工事店さまが実施してください。

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。

■屋外フード等は三菱換気送風機総合カタログにより別途ご用意ください。

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

<p>分解禁止</p>	<p>改造や必要以上の分解はしない (火災・感電・けがの原因になります)</p>
<p>風呂・シャワー室での使用禁止</p>	<p>浴室など湿気の多いところには、本体・壁スイッチとも取付けない (感電や漏電の原因になります)</p>
<p>指示に従い必ず行う</p>	<p>交流 100V を使用する (直流や交流 200V を使用すると火災や感電の原因になります)</p> <p>外気の取り入れ口は、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ (新鮮な空気を取り入れられず、室内が酸欠状態になるおそれがあります)</p> <p>本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に (落下によりけがをすることがあります)</p> <p>配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に (接続不良や誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります)</p> <p>指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する (接続に不備があると火災のおそれがあります)</p> <p>製品金属部(金属製ダクト)がメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電氣的に接触しないように取付ける〔電気設備の技術基準 解釈第 167 条 3 項〕 (接触されていると漏電した場合、火災の原因になります)</p>

安全のために必ず守ること つづき



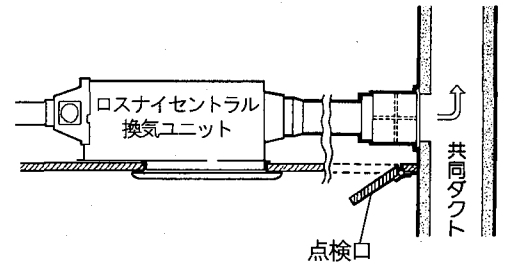
注意

誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

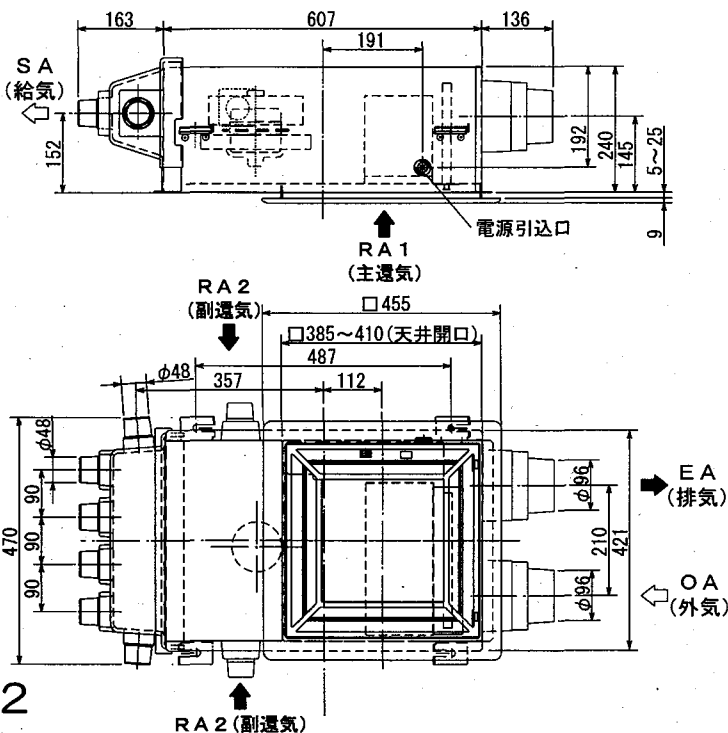
 禁止	天井取付け専用です。壁には取付けない (落下によりけがをすることがあります)
	直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には取付けない (火災のおそれがあります)
 指示に従い必ず行う	外気温度が -10°C を下回り、本体周囲の露点温度が 10.7°C (20°C 、 $55\%RH$ 相当)となる絶対湿度以上の場所には取付けない (結露水滴下することがあります)
	端子台カバーは工事後必ず取付ける (ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります)
	取付けの際は脚立を使用し、二人以上で取付ける (落下によりけがをすることがあります)
	取付けの際は手袋を着用する (着用しないとけがをすることがあります)
	ダクト配管は屋外に向かって $1/30$ 以上の下りこう配になるように取付け、断熱処理を確実に行う (雨水・雪等の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因になります)
	壁の給・排気穴に雨水・雪等がかかる場合は、深形フードを取付ける (雨水・雪等の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因になります)
	取付け後、長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る (絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります)
断熱層の内側に設置する (本体結露の原因またはダクト結露の原因になります)	

規制

- 共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施行令により、2mの鋼板立上がりダクトを取付けるか、システム部材(別売)の煙逆流防止ダンパーおよびその点検口を必ず設けてください。
- ダクト材質およびダクト用システム部材(別売)の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- ジャバラの使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。



外形寸法図



接続ダクト

- $\phi 100$ mm(断熱材付)フレキシブルダクト (EA・OA)
- $\phi 50$ mmフレキシブルダクト (SA・RA2 副還気)

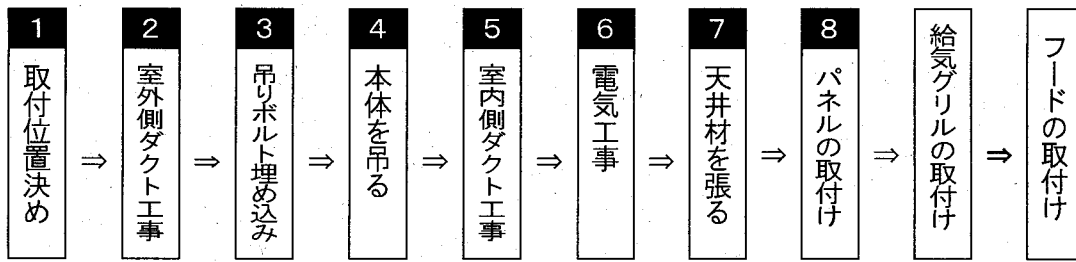
付属部品

- ゴムクッション …… 8個
- ワッシャー …… 8個
- キャップ …… 3個
- ネジ(パネル取付用) …… 5本
- 副還気接続口 …… 1個
- 副還気用カバー …… 1個
- ネジ(副還気用) …… 8本

単位(mm)

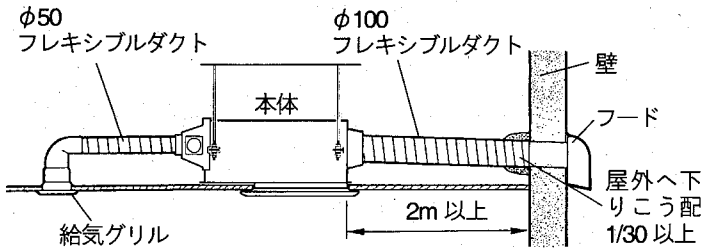
取付けかた

取付手順 (例)



給気グリル・フードの取付けはそれぞれの取付工事説明書に従って取付けてください。

取付位置決め



取付位置・壁穴位置を決める

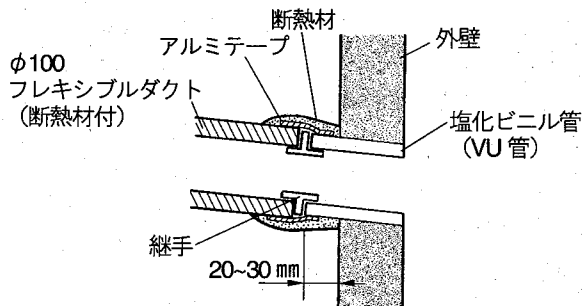
お願い

- 本体およびダクト配管は断熱層・気密層の内側に取付けてください。(断熱層の外側ではダクトが結露し、グリルから水滴下します)
- 給気と排気のフードは中心距離で450mm以上離して設置してください。(給排短絡防止のため)

室外側ダクト工事

注意

- ダクト配管は屋外に向かって 1/30 以上の下りこう配になるように取付け、断熱処理を確実に(雨水・雪等の浸入による感電・火災や家財等を濡らす原因になります)
- φ100VU管やφ100 スパイラルダクトを使用する場合は根元部まで断熱する



壁の給・排気穴から本体のダクト接続口位置までのダクト配管

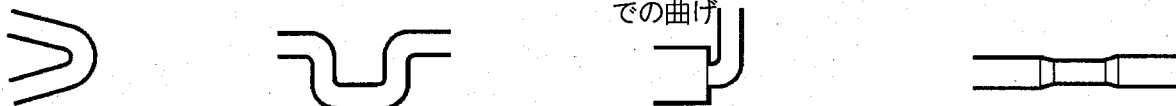
1. 外壁に埋め込んだ塩化ビニル管(VU管)に継手(システム部材)を接続する。

お願い

- 外壁にVP管が埋め込まれている場合は、VP管用の継手(市販)を使用してください。
 - 雨水や雪等の浸入を防ぐための深形フードを使用してください。
2. φ100mmフレキシブルダクトを継手に接続し、市販の固定バンド・アルミテープで固定する。
 3. 吹き付け式または貼付け式の断熱材を接続部に施す。

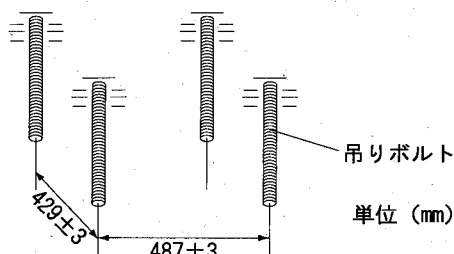
- 次のようなダクト工事はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因になります)

- ・ 極端な曲げ
- ・ 多数の曲げ
- ・ 吐出口のすぐそばでの曲げ
- ・ しぼり



吊りボルト埋め込み

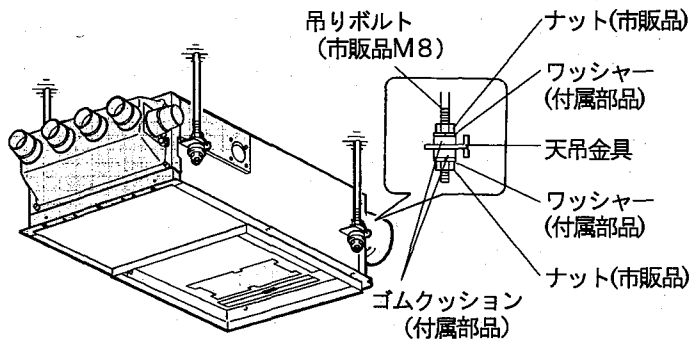
- 市販の吊りボルト(M8)を埋め込む。



取付けかた つづき

— 本体を吊る —

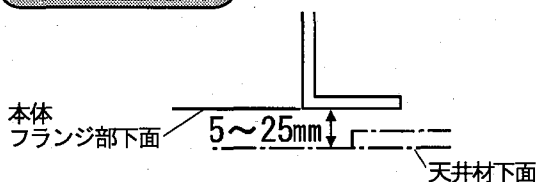
製品質量は12kgです。吊り作業は必ず2名以上で行ってください。



本体を吊る

1. 市販のナットを吊りボルトに取付ける。
2. 吊りボルトに付属のワッシャー、ゴムクッション、天吊金具を通す。
3. 本体が水平になるように付属のゴムクッション、ワッシャーおよび市販のナットで調整する。

本体調整範囲

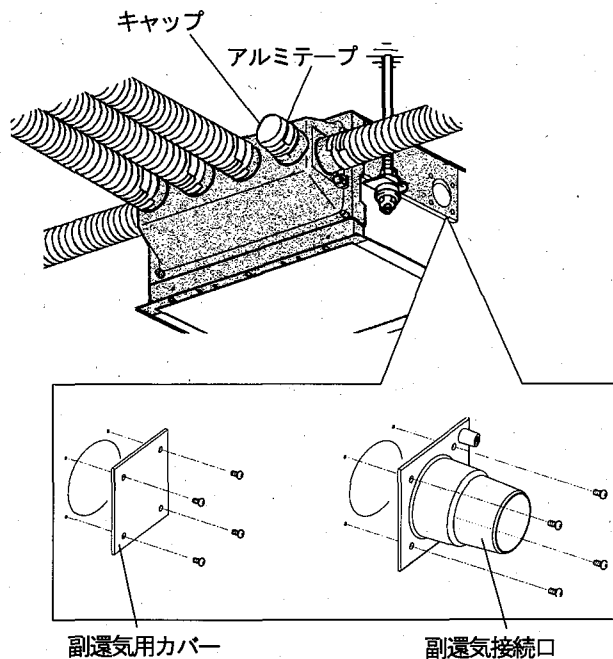


- 本体のフランジ部下面が天井材下面より上側に5~25mm以内に入るように本体を固定してください。

お願い

上記寸法を守らないとパネルが取付けられません。

— 室内側ダクト工事 —



〈使用しない室内側ダクト接続口がある場合〉

室内側ダクト6本のうち使用しないダクト接続口には付属のキャップをかぶせアルミテープで固定する。

お願い

2本以下での使用は行わないでください。

副還気接続口の接続

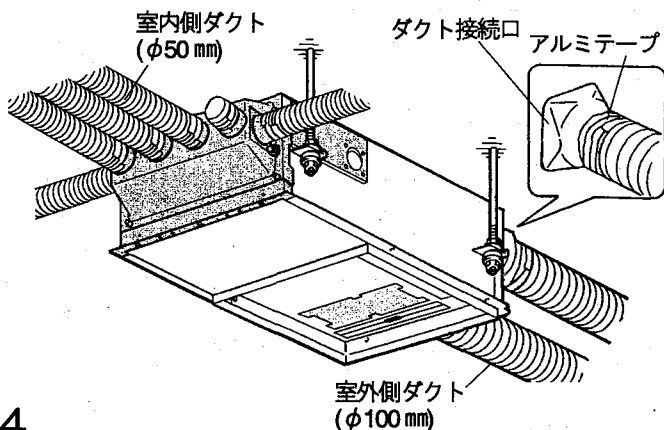
1. 本体両側面にある副還気口のうち使用する側に付属の副還気接続口を取付ける。(ネジ4本)
 2. 使用しない側には付属の副還気用カバーを取付ける。(ネジ4本)
- (両側使用する場合はシステム部材P-05PGを1個ご用意ください。)

お願い

副還気接続は少なくとも1ヶ所ご使用ください。
機能・性能が十分に発揮できない場合があります。

ダクト接続

1. 室内側、室外側ダクトをダクト接続口に差し込む。
2. ダクト接続口とダクトのすき間を市販の固定バンド・アルミテープで固定する。
3. アルミテープの上から結露防止用テープを巻く。



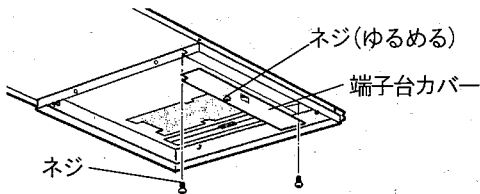
電気工事

警告

- 交流 100V を使用する（直流や交流 200V を使用すると火災や感電の原因になります）
- 指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する（接続に不備があると火災のおそれがあります）
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店（電気工事士）が安全・確実に行う（接続不良や誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります）

- 運転にはコントロールスイッチが必要です。システム部材のコントロールスイッチを用意してください。
- コントロールスイッチの取付けはコントロールスイッチに同梱の取付工事説明書に従ってください。

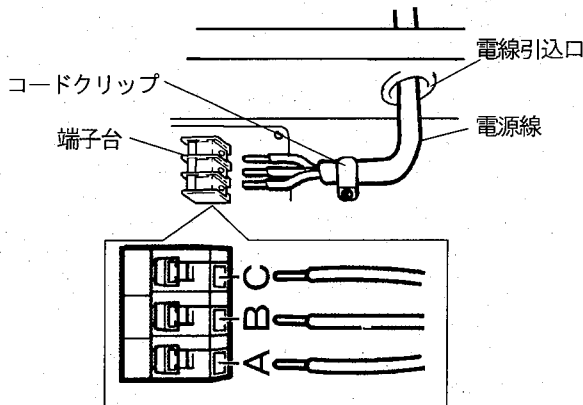
1



端子台カバーをはずす

- ネジ2本をはずし、ネジ1本をゆるめて端子台カバーをはずし、ダルマ穴・U溝からはずす。

2



配線する

- 電源線の先端皮むき寸法は 10 mm とする。
- 電源線 (VVF ケーブル単線φ1.6) を本体側面の電源引込口から本体内部に引き込む。
- コードクリップを一旦はずす。

結線をする

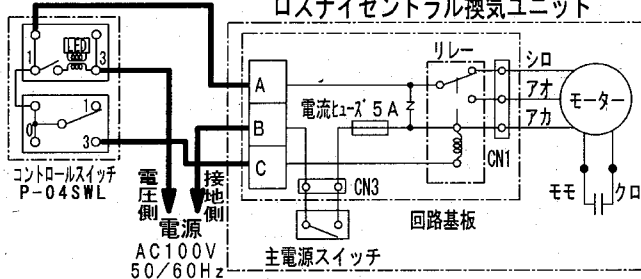
- 結線図通りに端子台に結線をする。
- 軽く引っ張って抜けないことを確認し、コードクリップで固定する。

■結線図

※太線部分を結線する。

100V 専用・誤結線注意

ロスナイセントラル換気ユニット



お願い

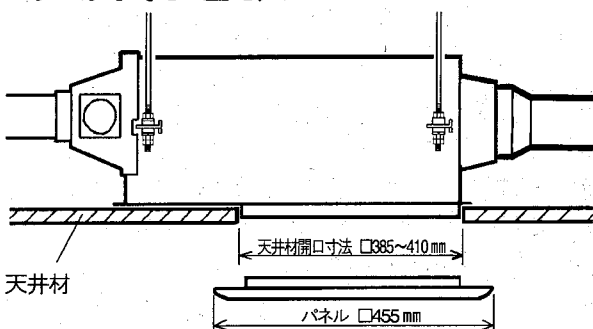
- 市販のスイッチを使用する場合も、必ず結線図に従ってください。（スイッチへの結線部分と渡り線が異なり、誤結線となる場合があります）
- 誤結線により、内蔵リレーのチャタリングが発生する場合があります。このとき他の電気製品（医療機器含む）に電波障害が生じる可能性がありますので、必ず結線図に従ってください。

3

元通りに端子台カバーを取付ける

- ネジ3本を締め付ける。

天井材を張る



天井材の開口は□385 mm～□410 mmの範囲であける

※開口の位置は 2 ページの外形寸法図を参照してください。

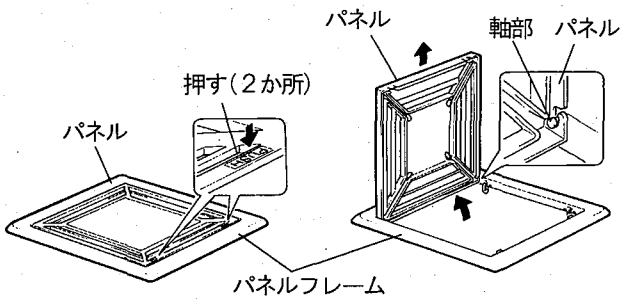
お願い

- 天井材は共鳴しにくい材質を使用してください。

取付けかた つづき

—パネルフレーム・パネルの取付け—

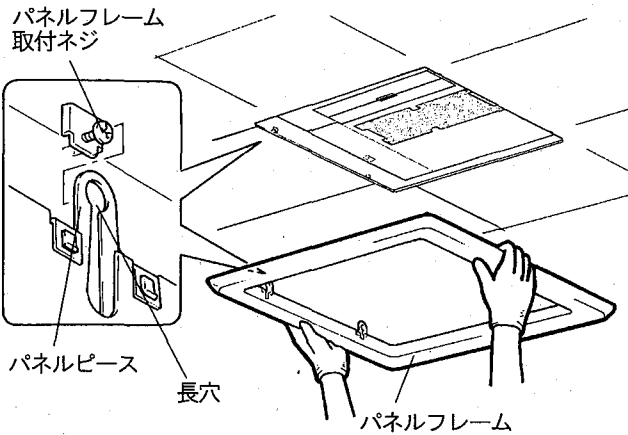
1



パネルをはずす

1. パネルの **PUSH** (2か所) を指で押す。
2. パネルをあげる。
3. パネルを下へ下げる。
4. パネルフレーム側へ寄せて、軸部からはずす。
5. 上へ引き出す。

2



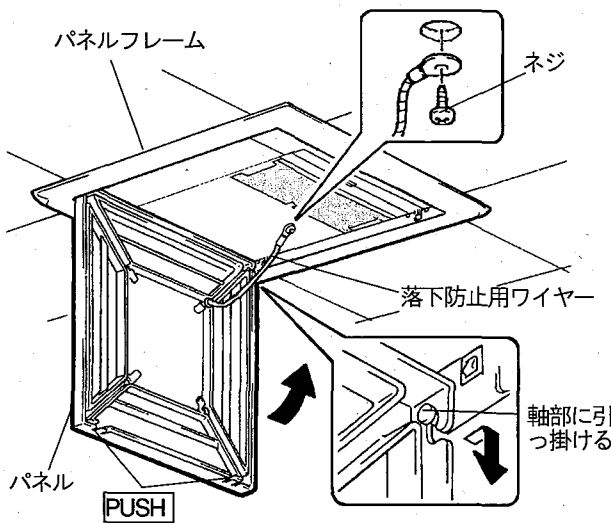
パネルフレームの取付け

1. 付属のパネルフレーム取付ネジ4本を本体に仮止めする。
2. パネルピースの長穴部分4か所を仮止めした取付ネジにはめ込む。

お願い

- パネルフレームの取付方向には方向性があります。4か所のパネルピースと取付ネジを合わせてください。
- 3. パネルフレームを押し上げ、天井に密着させた状態で仮止めしたネジを締め付け固定する。

3



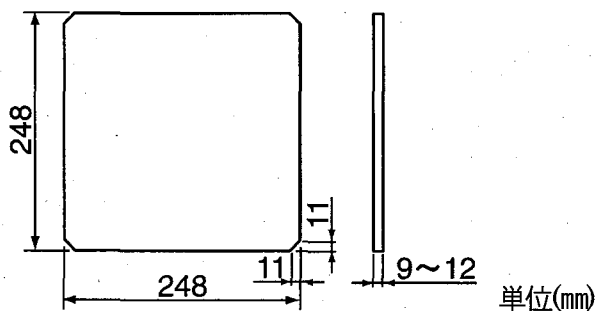
パネルの取付け

1. パネルをはずした逆の順序でパネルを取付ける。
 - パネルをパネルフレームの軸部に引っ掛ける。
2. 落下防止用ワイヤーの片端を本体にネジ止めする。
3. **PUSH** (2か所) を指で押しパネルを閉じる。

パネルと天井材を合わせる場合

■ ロスナイパネルが天井材と同一で見ばえの良い取付けかたです。

1



天井材を切断する

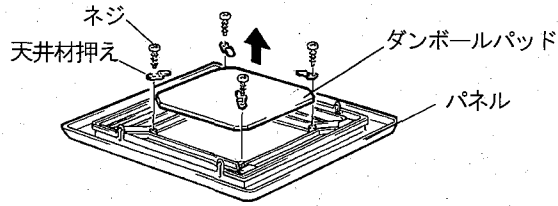
天井材を左図のように切断する。

お願い

- 天井材の厚さは9~12mmとしてください。
- 天井材は振動・共鳴防止のため強度のあるものを使用ください。
- 天井材は重いもの・割れやすいものは使用しないでください。(重さ1.0kg以下)

6

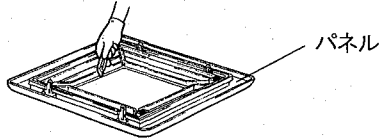
2



パネルを分解する

1. ネジをはずし、天井材押え(4個)をはずす。
2. ダンボールパッドをはずす。
(ダンボールパッドは使用しません)

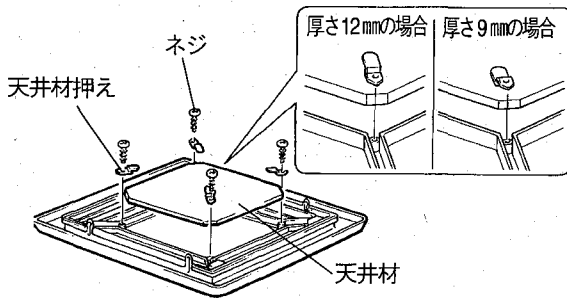
3



パネルを切断する

図のようにカッター等でパネルを切る。

4



天井材を組立てる

天井材を入れ、天井材押えで固定する。(天井材押えを元通りにネジ固定する)

お願い

- 天井材の厚みによって天井材押えの取付方向が異なります。(ガタツキのない方向で固定してください)

取付工事後の確認

- 取付工事終了後、試運転の前にチェック表に従って点検します。
- 不具合があった場合は必ず直してください。(機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません)

警告

配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店(電気工事士)が安全・確実に行う
(接続不良や誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります)

■チェック表

	チェック項目	不具合時の対策	チェック
取付工事後	各給・排気グリルの空気の流れは正常ですか?	ダクトを正常な配管にし、確実に取付ける	
	本体が確実に取付けられていますか?	本体固定ネジを締め直します	
	パネルが確実に取付けられていますか?	パネルを取付け直します	
	電圧は100Vですか?	100Vに直します(異電圧を印加すると基板が破損します)	
	本体の主電源スイッチを「ON」にして下表に基づき電圧チェックをしましたか?	誤結線です 結線図に従って結線を直します	

電圧チェック表

モード	スイッチ操作	端子間電圧	チェック欄
停止	<input type="checkbox"/> 切	A-B	0V
	<input type="checkbox"/> 弱	A-C	0V
	<input type="checkbox"/> 切	B-C	0V
	<input type="checkbox"/> 強		
強運転	<input type="checkbox"/> 入	A-B	100V
	<input type="checkbox"/> 強	A-C	100V
		B-C	0V
弱運転	<input type="checkbox"/> 入	A-B	100V
	<input type="checkbox"/> 弱	A-C	0V
		B-C	100V

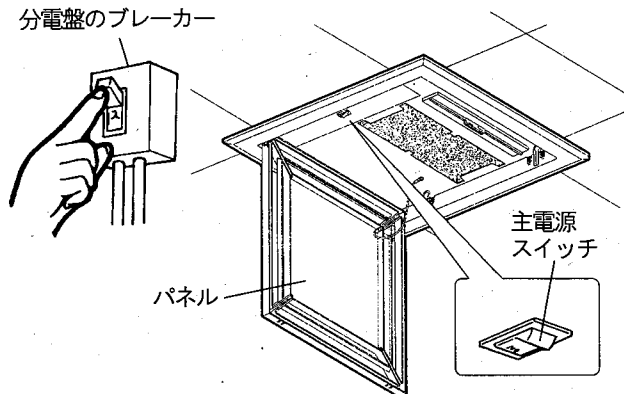
- 測定した電圧が左表と異なる場合は、誤配線されていると考えられます。通電を停止して、結線図に基づき結線をやり直し、再度チェックしてください。
※端子間電圧は、電線電圧の変動により若干異なる場合があります。

- ブザー音が発生した場合は誤結線です。結線をやり直してください。

試運転

■できるかぎりお客さま立会いで試運転を実施してください。

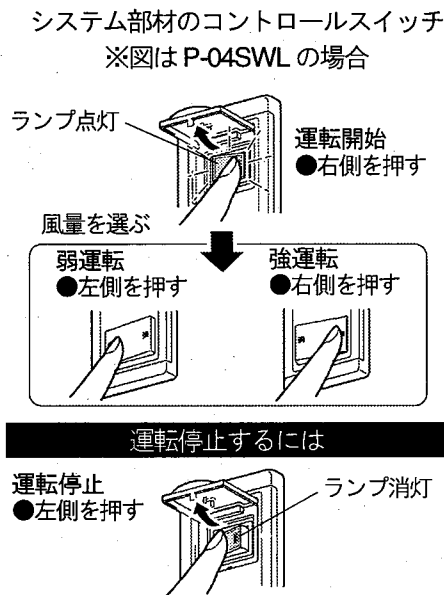
1



電源を入れる

- 分電盤のブレーカーを入れる。
- 本体の主電源スイッチを「ON」にする。

2

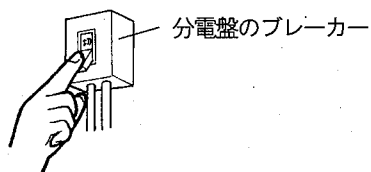


運転状態を確認する

1. コントロールスイッチで運転操作をする。
2. スイッチ指示に合わせ正常に運転するか確認する。

異常な振動・騒音がないか確認する

3



電源を切る

- 分電盤のブレーカーを切る。

お客さまへの説明

- 分電盤のブレーカーとコントロールスイッチの位置および本体の主電源スイッチの位置をお客さまへ説明してください。
- チェック表の結果をお客さまへお知らせください。
- この「取付工事説明書」は、別冊の「取扱説明書」とともにお客さまへお渡しください。
- お客さまが不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理者へ説明してください。

 **三菱電機株式会社**

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号 電話0573-66-2111

この説明書は、再生紙を使用しています。